

JNSA 2014年度活動報告会 【B4】 社会活動部会(BoF)

「IT環境の変化に対応していくイン シデント対応の模索」

日本コンピュータセキュリティ
インシデント対応チーム協議会

運営委員 村上 晃

2015年6月9日

組織概要

■ 設立

- 2007年3月

■ 名称

- 正式名称: 日本コンピュータセキュリティインシデント対応チーム協議会
- 略称: 日本シーサート協議会
- 英語名: NIPPON CSIRT ASSOCIATION
- ウェブ: <http://www.nca.gr.jp/>



■ 使命

- 本協議会の全会員による緊密な連携体制等の実現を追及することにより、会員間に共通する課題の解決を目指す
- 社会全体のセキュリティ向上に必要な仕組みづくりの促進を図る

活動概要

CSIRT間コミュニティ活性化と信頼関係醸成

■ さまざまな場の提供

- シーサート間の交流の場
- シーサート間の連携のあり方に関する検討の場
- 共有方法検討等

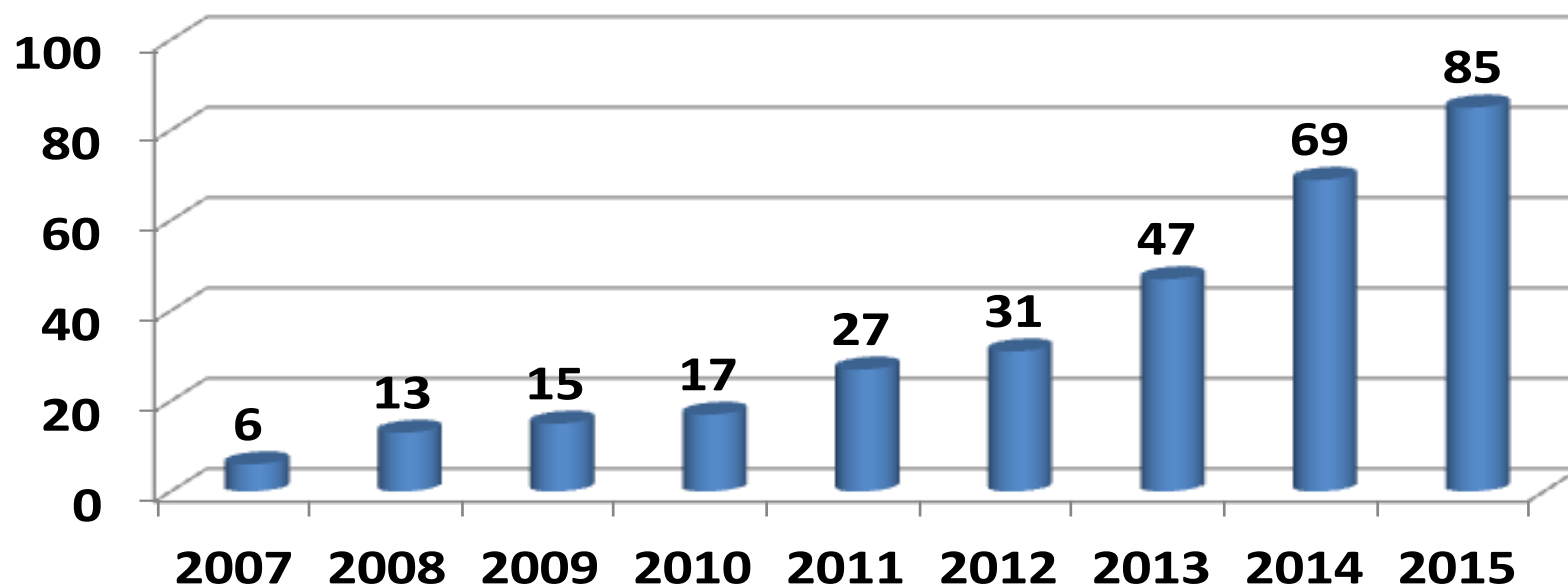
■ シーサート構築支援(マテリアル等資料の公開)

■ シーサート活動支援

- セキュリティインシデントへの対応支援
- 事例情報提供、対策情報提供等

日本シーサート協議会加盟数の推移

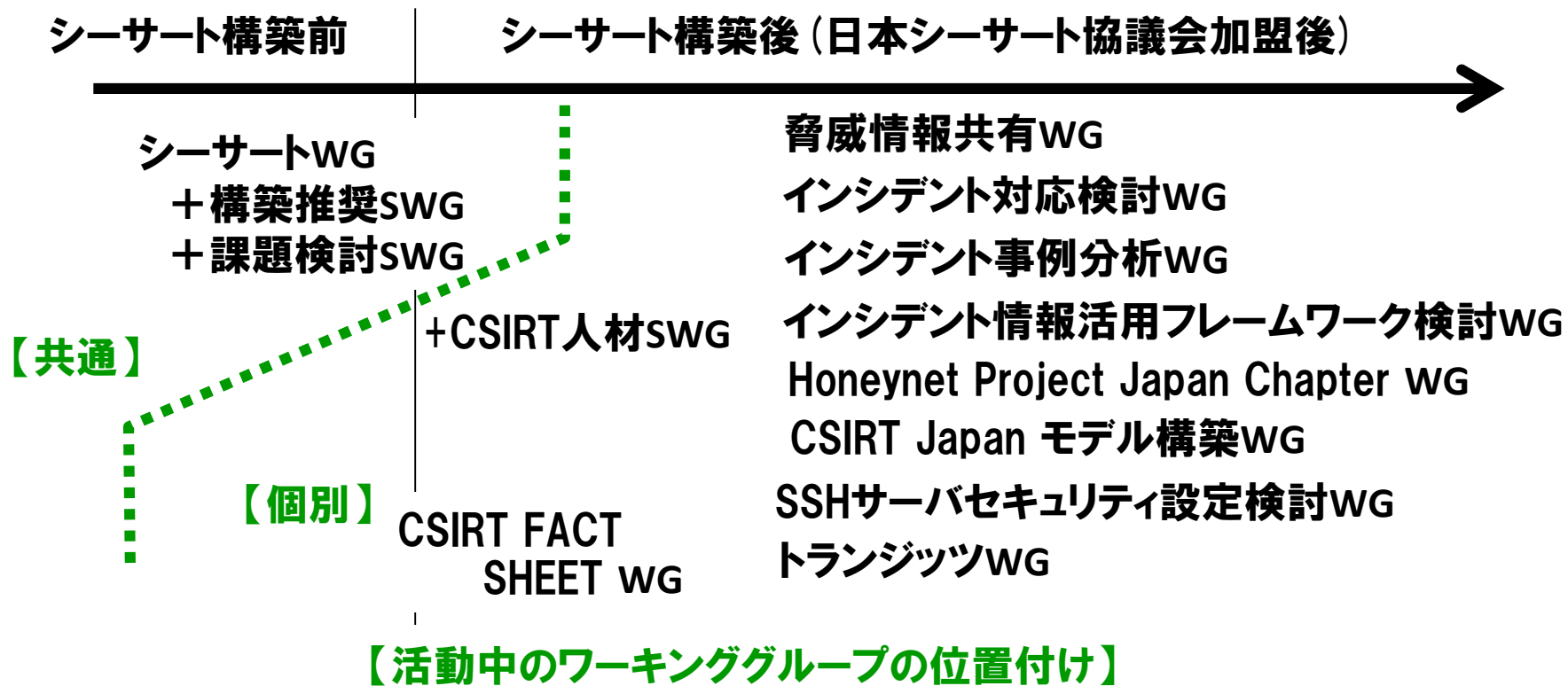
- 日本シーサート協議会の加盟チーム数も順調にのび85チームとなりました（2015年6月現在）。



ワーキンググループ

- 問題提起と解決のための活動としてワーキンググループを立ち上げ、会員ならびに協議会外部の協力者と共に、問題解決を図っていきます。

<http://www.nca.gr.jp/activity/index.html>



NCAとしての課題は？あるのか？

- 会費が無料なので、ほぼボランティア(任意団体)
 - 活動範囲の限界
 - 各組織持ち出し
 - (サーバー、Mail、事務局、会議場等)



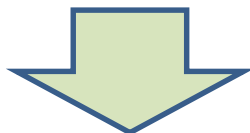
会員増加に伴い、メンバーが一堂に会する会場の確保が難しい
※ 85組織なので、各組織2名としても170名越え程度の場所が必要

顔の見える形での信頼関係の醸成活動が、
規模が大きくなると難しくなる。

情報共有の課題は？あるのか？

■ 情報共有や連携活動のために……

- とはいくものの中にはNDAがないと共有・連携できないという組織(未加盟も含む)もある。



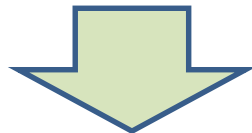
確かにその通り。でもそのために、顔の見える信頼関係の醸成として各種交流の場を提供しているのだが……

組織の規模やチームの規模によって従来セキュリティコミュニティで特に考慮しなくてもよかったことを考慮しなければならなくなつた。

**共有可能な情報や、提供可能な情報(インディケーター情報等)
具体的な交換方法等**

人材育成・連携活動での CSIRTの課題は？あるのか？

■ 一口に組織内CSIRTといっても……



■CSIRT の必要な機能をすべて網羅している組織もあれば、かなり限定的な組織もある。従来のセキュリティベンダーや、ISP以外のエンドユーザーの加盟増加によって、CSIRT間のスキルや課題がそれぞれ異なる。

課題検討SWG等で課題解決のためのWGを開催

遠隔地の加盟組織との会合

(現在は主に東京中心であるが遠隔地の加盟組織も増加傾向)

■シーサート課題検討SWG

■TRANSITS(CSIRTメンバーの育成カリキュラムを無料で実施)

最後に



シーサート同士の積極的なコミュニケーションを図ることによって、よりよいセキュリティ対応を考え、そして、実現していきます。



<http://www.nca.gr.jp/>
事務局 nca-sec@nca.gr.jp